

號九四第

(裁決)行決 覽回後		帶 連		決行指定		決裁指定		保存期限		政務官 書記官 回付(決行前)	
長(部)局		長(部)局		大 臣		件 名		番 號		受 領	
				委		九六式輕機関銃外三点假制式制定ノ件		參第 八三三		陸軍	
				委		官 次 務 政		一五九三		號	
長 課		長 課		官 與 參		長局務主官副級高 官 與 參		起元縣(課名)		陸軍	
				書記官		書記官					
				主 務		主 務					
				副 官		副 官					
				主 務 員		主 務 員					
				大 臣 官 房		大 臣 官 房					
				受 領 額		受 領 額					
				昭 和 年		昭 和 年					
				八 月 十 日		八 月 十 日					
				三 月 廿 八 日		三 月 廿 八 日					
				三 月 廿 八 日		三 月 廿 八 日					
				三 月 廿 八 日		三 月 廿 八 日					

甲

(決行後)

筆記者

陸

軍

陸軍技術本部

銃三第 三六三  
五一四

陸軍副官ヨリ陸軍技術本部長へ通牒

首題ノ件客年七月七日附陸軍技術本甲第三七五號及同年十二月九日附同第七三〇號上申ノ通定メラルヘキニ付該圖面(概説共)各一六部送付セラレ度

右送付アリタル後左案決行相成度

陸軍第四〇八號

昭和拾參年一月廿八日

陸軍副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

左記兵器別紙圖面ノ通定メラルシニ付該圖面(概説共)各部送付ス

左記 陸軍第三六一二號

一九六式輕機関銃

昭和拾參年六月拾七日

一同

空包銃身

一同

三脚架甲及乙

教育總監部及關東軍行六( )内ノ別紙配布表ノ通定メラル

昭和拾參年八月八日

附屬品別送





別紙添付

陸技本甲第三七五號

九六式輕機關銃同空包銃身假制式制定相成度件上申

昭和十二年七月七日

陸軍技術本部長 久村

陸軍大臣 杉山 元 殿

首題兵器別圖ノ通制式制定相成度左記ノ通書類相添へ上申ス

添 附 書 類

九六式輕機關銃假制式兵器圖

附表 一  
目錄 一  
圖面 五十五葉

同 概 說

同 審査經過ノ概要

同 兵器細目名稱表

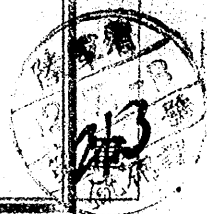
九六式輕機關銃空包銃身假制式兵器圖 (二葉)

同 兵器細目名稱表

二	一	二	二	二	一
部	部	部	部	部	部



陸



九六式輕機關銃概説

第一 目的

現制十一年式輕機關銃ニ比シ故障ノ發生少ク取扱豫用ニ便ニシテ精良良好ナル輕機關銃ヲ得ントスルニアリ

第二 構造、機能

一、本銃ハ銃身、「ガス」唧筒、尾筒、銃尾機關、尾筒底、積桿銃床及脚ノ主要部ヨリ成リ彈倉ヲ附シ之ヲ囊ニ收容携行ス  
二、銃ノ機構ハ「ガス」利用式ニシテ火藥「ガス」ノ一部ハ活塞頭ニ作シ活塞及圓筒ヲ後退セシメ同時ニ藥莢ヲ抽出並ニ流出ヲ行フ  
復坐發條ノ力ニ依リ活塞ハ前進シ次發實包ヲ裝填シ尾筒ノ前端下方ニ收容セル方型ノ門子狀活塞ノ前進ニ伴ヒ壓上セラレ圓筒下面相當溝ニ吻合スルコトニ依リ閉鎖位置ヲ保持ス、圓筒ノ前進停止後活塞止ハ活塞ノ鉤止ヲ解キ活塞ノ前進シテ擊莖後端ヲ衝擊シ擊發セシム

陸軍技術本部第一部  
昭和拾貳年七月七日



箱型彈倉ニハ實包三口發ヲ二列ニ收容シアリ其ノ發條ニヨ  
 リ下方ニ歷下シ逐次裝填セシム

三、銃身容易ニ交換シ得ラレ上面ニハ提把ヲ有シ携行ニ便ナラ  
 シム

四、照尺ハ射距離ニ〇〇米乃至一六〇〇米ヲ有シ轉輪操作ニ依  
 ル孔照門トシ照望ト共ニ夜光管ヲ裝着ス

五、兼夾蹴出窓反彈倉口部ニハ防塵用蓋板ヲ備フ  
 六、規整子ニヨリ活塞ニ作用スル瓦斯壓ヲ調整スルコトヲ得

且其ノ前端ニ銃劍ヲ裝着シ得セシム

七、尾筒上面ニハ眼鏡ヲ裝着シ得ル兼小連弁追加ニ由セラル  
 等↓

八、本銃ハ十一年式輕機関銃三脚架ニ本銃ニ適合スヘキ緩衝托  
 架ヲ交換裝着シ使用シ得ラル

九、本銃ニハ屬品一組(買單、銃口蓋、銃覆屬品囊、手入具囊、彈倉囊、

彈倉口蓋、彈囊反裝彈器、同囊、眼鏡囊、反豫備銃身一ヲ附隨ス  
第三 主要諸元  
附表ノ如シ

眼鏡

銃

附表

視倍	重量	初速	發射速度	銃身長高	口径	銃身長	銃身長	銃ノ全長	彈倉重量	銃身重量	全備重量 (彈倉ヲ除ク)
一〇度	二、五倍	約七三五	約五五〇	高低姿	六糎五	四九八	四五〇	一〇米四	三〇發甚彈	二五五	八五七

主要諸元



## 九六式輕機關銃審査經過ノ概要

## 一、審査ノ起源

現制十一年式輕機關銃ハ小銃ト同一挿彈子ヲ其ノ儘使用シ得ル特長ヲ有スルモ其ノ機構複雑ニシテ故障多發シ且操用ニ不便ノ點少シトセス而シテ滿洲事變ニ於テ之等ノ諸缺點ヲ實證スルニ至リタルヲ以テ技術本部ニ於テモ之カ對策ヲ講スルノ必要ヲ認メ昭和七年四月六日技術本部ニ於テ銃器審査促進ニ關スル懇談會ヲ開催シ關係各方面ノ意見ヲ求メタル結果之等ノ諸缺點ヲ除キ得ル新樣式輕機關銃ノ設計ニ着手スルコトトナリ其ノ考案試作ヲ單ニ造兵廠ノミニ止メス廣ク民間ニモ之ヲ求メ現制十一年式輕機關銃ニ比シ故障ノ發生少ク取扱操用ニ便ニシテ精度一層良好ナル輕機關銃ヲ得ルコトニ決シ本審査ニ着手スルニ至レルモノナリ

## 二、審査ノ經過

## 三、設計要領ノ決定

昭和拾陸年七月七日

陸軍技術本部第一課

陸軍

昭和七年六月各方面協議ノ結果左ノ如ク設計要領ヲ定ム  
 イ、使用彈藥ハ三八式銃實包トス

ロ、輕三脚架ヲ附シ重量ハ單獨兵ノ戰場駈步運搬ヲ許スヲ要ス  
 ハ、故障ノ發生稀ニシテ特ニ惡性故障ヲ絶無ナラシム

酷寒時風塵中或ハ未熟射手ノ取扱ニ於テモ故障ヲ發生セサル  
 コト

ニ、一〇〇〇米附近迄ノ命中精度良好ナルコト

ホ、機構簡單堅牢ニシテ操作教育容易ナルコト

ヘ、單發射撃ヲ可能ナラシムルト共ニ單發及連續射撃ノ能力ヲ  
 十一年式輕機關銃ニ比シ一層向上スルコト

ト、照準具ハ薄明時ト雖照準容易ナルノミナラス照尺ヲ裝スル  
 タメ射撃姿勢ヲ著シク變更スルノ要ナク又發射ニ方リ陽炎ノ  
 タメ照準ヲ妨ケサルコト

チ、仰角八〇度俯角四五度ノ間ニ於テ連發機能良好ナルコト

リ、給彈様式ハ箱彈倉式ヲ採用シ裝彈器ヲ附ス  
 收容彈數三〇發トシ上方ヨリ挿入ス

裝彈器ハ簡易堅牢ナルヲ要シ成シ得レハ給油裝置ヲ附ス

又、銃身ト放熱筒トヲ一体トシ敵彈下ニ於テ容易ニ之ヲ交換シ  
 得ルヲ要ス

ル、防寒手套ノ使用ニ支障ヲ來サス且攝氏零下五〇度ニ於テモ  
 機能良好ナルコト

ヲ、防塵裝置ヲ附ス

ワ、照門ハ孔照門トシ成ル可ク後方ニアラシメ且夜間ノ照準ヲ  
 容易ナラシム

照準高ハ三〇〇耗ヲ標準トシ別ニ狙撃眼鏡ヲ裝著シ得ルコト  
 ヲ考慮ス

カ、銃把ハ拳銃式トシ歩兵用ニアリテハ肩着部ヲ要セス  
 騎兵用トシテハ特ニ銃固有脚ヲ附ス

ヨ、騎兵用ニアリテハ肩着ノタメ銃床ヲ附スルモノトス  
2. 第一次試作及其ノ試験成績

第一次ハ競争考案試作時代ニシテ

陸軍造兵廠

東京瓦斯電氣工業株式會社 (瓦斯電ト略稱ス)

日本特殊鋼合資會社 (特殊鋼ト略稱ス)

株式會社南部銃製造所 (南部銃ト略稱ス)

ニ左ノ設計條件ヲ示シ考案試作セシム

イ、重量 九匁以下 (彈倉、負革及銃本然ノ脚ヲ除ク)

ロ、口径 六 耗 五

ハ、全長 一米以上一米二〇以下

ニ、使用彈種 三八式銃實包

ホ、初速 七三〇米/秒以上

ヘ、命中精度 十一年式輕機關銃ニ準ス

ト、發射速度

毎分約五〇〇發ヲ標準トス

チ、自動機構

瓦斯利用式トス

リ、放熱様式

空冷式トス

ヌ、裝彈様式

箱彈倉式トシ上方ヨリ挿入ス收容彈數ハ三

〇發トス

別ニ箱彈倉ニ裝彈スルタメ裝彈器ヲ附ス

ル、照準具

孔照門トシ薄明時ノ照準ヲ願慮シ照門ハ成

ルヘク銃ノ後部ニ位置セシム

ヲ、銃尾

銃把ハ把持ニ便ナル如ク拳銃型トシ肩着部

ハ着脱式トス

ワ、脚

銃本然ノ脚ハ十一年式輕機關銃ノモノニ準

シ且着脱式トス

カ、其ノ他細部ニ亘リ所要ノ注意事項ヲ示ス

昭和八年四月造兵廠製及民間三社ノ第一次試作品完成セルヲ以

テ小石川東京工廠構内射場ニ於テ各種試験ヲ實施ス  
 3. 第二次試作及其ノ試験成績

昭和八年六月第一次試作品試験成績ヲ審査セル結果造兵廠及南部銃製造所ノ考案ヲ採用シ設計條件ニ新ニ左ノ項目ヲ追加シ第二次試作ヲ該製作所ニ命ス

南部銃ニ對シ

イ、豫備銃身及彈倉六箇ヲ附スルコト

ロ、小部品ノ豫備品ヲ準備スルコト

造兵廠ニ對シ

イ、重量ノ輕減

ロ、防水、防塵ニ一層注意スルコト

ハ、現制三脚架ニ装着シ得ル如クスルコト

ニ、豫備銃身一、彈倉八箇ヲ附スルコト

ホ、床尾ヲ直線トシ肩當ヲ附スルコト

昭和八年十一月第二次試作品完成セルヲ以テ小石川東京工廠構内射場及富津射場ニ於テ各種試験ヲ實施セルニ命中精度ハ十一年式輕機關銃ト大差ナク機能ハ概シテ良好ナルモ彈倉關係ニ基ク故障アリ

昭和八年十二月ヨリ全九年二月ニ至ル間ニ於テ北滿冬季試験及陸軍歩騎兵學校ノ實用試験ニ附ス

#### 々 第三次試作及其ノ試験成績

昭和九年五月當部ノ試験成績及北滿並兩實施學校ノ意見ヲ綜合審査ノ結果左ノ如ク決定シ第三次試作品ヲ注文スルニ決ス

イ、第三次試製品ハ審査ノ促進上陸軍技術本部ニ於テ設計ス

ロ、造兵廠及南部銃製造所ニテ試製セル兩種銃ノ各長所ヲ採用設計（A號銃ト稱ス）セルモノヲ南部銃製作所ニ試作セシム

ハ、藥莢ノ蹴出方向ヲ下方ニセルモノヲ新ニ設計シ造兵廠ニ試作セシム（B號銃ト稱ス）

昭和九年十月第三次試作品完成セルヲ以テ同年十一月ヨリ昭和十年三月ニ亘リ當部及北滿並歩騎兵兩實施學校ニ於テ各種ノ試験ヲ實施ス

昭和十年八月各種試験成績ヲ綜合審査セル結果A號銃ニ所要ノ改修ヲ施シ採用スルコトトシB號銃ハ其ノ審査ヲ中止スルニ決ス

昭和十年五月ヨリ昭和十一年一月ニ亘リA號銃ノ連續發射ニ依ル銃加熱ニ伴フ彈著降下防止其ノ他必要改修事項ニ關シ各種ノ試験ヲ實施ス

昭和十一年一月各種試験ノ結果概ネ改修ノ目的ヲ達シ得タルヲ以テ試製九六式輕機關銃ト命名シ左記ノ如ク所置スルコトニ決ス

イ、昭和十一年三月迄ニ圖面ノ整備ヲ完了ス

ロ、試験銃約一〇〇挺ヲ十一年度初頭ヨリ造兵廠及南部銃製作



所ニテ製作ヲ開始シ十一年九月乃至十二月ノ間毎月概ネ平等ニ製作ス

ハ、試験銃ハ歩騎兵學校及北滿部隊ニ交付シ十一年度中ニ大規模ノ實用試験ヲ實施ス

ニ、試験銃ノ注文検査、試験實施等ハ技術本部擔任ス  
 五、製造審査

此種兵器ハ將來數製造所ニ於テ多數製作ヲ要スルモノナルヲ以テ廣ク製造上ノ難易ヲ調査シ制式ヲ決定スルヲ必要ト認メ且昭和十二年度ヨリ整備ニ着手シ得シメンカ爲各方面ト打合セ昭和十一年二月造兵廠ニテ五〇挺ヲ（小倉工廠二五名古屋工廠二五）南部銃ニテ五〇挺ヲ製作セシムルコトトシ製造ノ設備、技能材料補給ノ難易等ニ應シ各製作所ノ意見ヲ蒐集シ審議シ主トシテ製造上ノ見地ヨリ若干ノ小修正ヲ行フ

6. 最終實用審査成績

昭和十一年十月ヨリ同十二年四月ニ亘リ逐次完成セル九六式輕機關銃ニ就キ當部及北滿並歩騎兵兩實施學校ニ於テ各種試驗ヲ實施シ次ノ判決ヲ得タリ

北滿冬季試驗成績

判 決

本銃ハ零下三十度附近ニ於テモ塗油ノ拭除若ハ防塞銃覆ノ如キモノヲ使用スル等適當ナル處置ヲ講スルトキハ射擊機能概シテ良好操用又至便ニシテ實用ニ供シ得ルモノト認ム（其後昭和十二年一月ノ試験ニ於テハ零下四十度附近ニ於テモ機能概シテ良好ナリ）

陸軍歩兵學校實用試験成績

判 決

多數銃製作ノ結果送彈不良ニ基ク故障ヲ生起シタルモ此等ノ故障ヲ防止シ得ル如キ部分的修正ヲ加ヘナハ概シテ實用ニ適スル

ニ至ルナラン

陸軍騎兵學校實用試験成績

判 決

試製九六式輕機關銃ハ送彈不良及抽筒不良ノ點ヲ改修セハ實用上適當ナルモノト認ム

當部ノ試験並以上ノ實用試験成績ニ鑑ミ銃ニ所要ノ改修ヲ施シ且ツ豫備品並屬品ノ種類員數等ヲ決定ス

## 7. 銃身命數増進成績

昭和十二年四月ノ耐久試験ニ於テ無塗蠟三八式銃實包ヲ使用スル時ハ銃身ノ命數著シク短縮スルコトヲ發見シ種々之カ對策ヲ研究ノ結果銃身ノ小修正其他ニ依リ概ネ一万四、五千發ノ命數ヲ保持セシムルヲ得タリ

以上ニ依リ概ネ所期ノ目的ヲ達成シ得タルモノト認メラルヲ以テ圖面ニ所要ノ修正ヲ施シ茲ニ制式上申スルコトニ決定ス



陸軍部 迎 参 第 五 九 三 號

陸技本甲第七三〇號

九六式輕機關銃三脚架甲(乙)假制式制定相成度件上申

昭和十二年十二月九日

陸軍技術本部長 久村 種樹

陸軍大臣 杉 山 元 殿

首題兵器ヲ別圖ノ通假制式制定相成度左記添付書類相添へ上申ス

左 記

九六式輕機關銃三脚架甲假制式圖

自第一葉 至第四葉

壹

部

同 兵器細目名稱表

貳

部

九六式輕機關銃三脚架乙假制式圖

自第一葉 至第二葉

壹

部

同 兵器細目名稱表

貳

部

同 甲(乙) 審査經過ノ概要

貳

部

同 概 說

貳

部



軍

九六式輕機關銃三脚架甲(乙) 概説

一、目的

十一年式輕機關銃三脚架甲(乙)ニ全シ

二、構造、機能

十一年式輕機關銃三脚架甲(乙)ノモノニ全シ

三、重量諸元

重量	甲 八五〇〇	乙 七三〇〇
高低射角	俯仰 各 五度	俯仰 各 五度
方向射角	左右 各 二、三度	左右 各 二、三度

陸軍

昭和十一年三月九日  
陸軍技術本部第一課

陸軍

九六式輕機關銃三脚架甲(乙) 審査經過ノ概要

昭和拾貳年三月九日

一名 稱

九六式輕機關銃三脚架甲(乙)

二 審査ノ起源

昭和八年六月九六式輕機關銃ノ審査ニ伴ヒ本三脚架ノ審査ニ著  
手ス

三 審査經過ノ概要

昭和八年六月現制十一年式輕機關銃三脚架ノ緩衝器一改修ヲ施  
シ九六式輕機關銃ヲ裝著シ得ル如クシ銃ノ試験ト共ニ各種試験  
ヲ實施シタル結果概ネ適當ナルモノト認め茲ニ假制式トシテ上  
申スルコトトセリ

昭和十三年六月三日

陸技本甲第三三七號

九六式輕機關銃外參點圖面並概説送付ノ件通牒

昭和十三年六月三日

陸軍技術本部副官 簡 井

陸軍省副官 櫛 淵 鎭 一 殿

三 郎

本年一月二十八日附陸普第四〇八號通牒ニ係ル首題ノ圖面並概説左記ノ通送付ス  
追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度

左 記

九六式輕機關銃

(圖面 概説) 五拾七枚 壹枚

九六式輕機關銃空包銃身

(圖面) 貳枚

全

三脚架甲

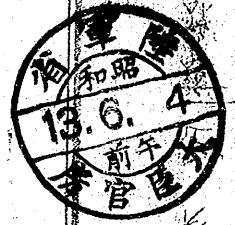
(圖面 概説) 四枚 壹枚

全

三脚架乙

(圖面) 貳枚

各 百拾六通



昭和十三年 8 31  
1593





陸 普

副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

首題細目名稱表別紙ノ通定ヲレレニ付左  
記ノ通送付ス

追テ本表ノ配布ハ十年式輕機関銃細目名稱  
表ニ依ラレ度

左 記

陸普第二七八三號

昭和七年五月十三日

一 九六式輕機関銃

一 同

三脚架甲及乙 平時用

部

一 日

空包銃身

昭和七年七月廿日 附屬品送付表

右別紙為稿紙ノ官房於テ各三〇部印刷相成度





8020

九六式輕機関銃細目名稱表

九六式輕機関銃

昭和十二年七月  
陸軍技術本部調製





九六式輕機關銃

										銃																					
眼										彈			脚			床				銃			槓	底筒			尾				
鏡										倉	脚	脚	脚	品		隨		附		体	槓	品		隨	附	体					
										一六	二	左右各一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一					
										二四	二	左右各一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一					
接眼環										帶金	ばね	軸	ばね	ばね	軸	軸	軸	ばね	内管	床尾板	鉤板(駐栓共)	ばね	ばね	ばね	駐子(止ねず共)						
接眼鏡室托筒										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね				
緊定轉輪										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね				
體										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね				
遮光筒										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね			
對物鏡室										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね				
接眼鏡室托筒										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね			
緊定轉輪										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね			
體										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね			
接眼鏡室托筒										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね		
緊定轉輪										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	
體										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	
接眼鏡室托筒										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね		
緊定轉輪										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね
體										ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね	ばね
50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27								



身銃備豫		品											属				
品	隨附	銃	品入收		眼	品入收		裝	彈	彈	彈	彈	彈	銃	手		
			拭	掃		裝	卷									彈	倉
囊	口	蓋	身	布	鏡	卷	卷	彈	囊	蓋	乙	甲	管	管	頭		
—	甲乙各二	—	—	—	—	二	二	五	—	—	—	八	—	甲乙各二	—		
—	甲乙各二	—	—	—	—	二	二	三	二四	—	六	—	—	甲乙各二	—		
縛紐				口金	蓋 控革 荷革(控革共)	握把軸 副環 握把軸 握把止ばね	帶金 底板(脚座金共) 駐鉤座 押鉄(捕強鉄共)	托革 荷紐	囊 負紐	げね 負紐	體 體	體 體	軸	持続管			
					「托架」 「對控革」 「駐板」 「通持托革」	「脚環座」 「脚環」 「口金(帶金捕強板甲之各二共)」 「駐鉤(付軸共)」 「駐板」 「握把甲」 「握把乙」 「握把軸座金」 「押鉄軸(座金共)」 「駐筒」	「控革」 「對控革」	「控革」 「對控革」 「吊革」 「遊環」 「方形遊環」	「控革」 「對控革」 「吊革」 「遊環」 「駐環」	「防塵布(附革共)」 「隔布」 「吊革」 「鈕(稀金共)」 「鈕口金(ばねばね蓋板、座金共)」 「茄子環(駐鉤軸、ばね共)」 「駐環」	「提布」 「吊革」 「鈕口金(ばねばね蓋板、座金共)」	「三八式歩兵銃ノモ」 「ノモノ二同シ」 「蓋革(防塵布二共)」 「鈕(稀金共)」					
92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75

銃身				區分名稱數量	細部ノ名稱數量及摘要
附隨品			體		
提把	規整子	照星			
一	一	一	一	一	
支鐵 一、	活筭 (ばね、蓋螺共) 一、	夜光管 一、	ピン 一、 ばね 一、		
坐環 (駐筭 共) 一、					
九六式輕機關銃ノモ ノニ同シ		九六式輕機關銃ノモ ノニ同シ			

九六式輕機關銃空包銃身

陸軍



高低照準機		緩衝托架	
區分名	稱數	稱數	量
高低照準機	一	緩衝托架	一
昇降螺	一	銃坐	一
銃坐托筒	一	銃尾托坐	一
塞板(小ねぢ共) 覆前板、止ばね共	一	駐鉤(ばね、ばね蓋共)	一
駐栓(握把、握把ばね、握把軸共)	一	駐栓	一
高射緩衝ばね軸	一	緩衝ばね	一
駐板(軸、活筒、活筒頭、活筒ばね共)	一	高射緩衝ばね	一
駐板止	一	高射緩衝ばね軸	一
高射緩衝ばね室	一	高射緩衝ばね	一
塞螺	一	高射緩衝ばね	一

九六式輕機關銃三脚架甲細目名稱表

昭和二十年三月九日  
陸軍技術本部第一課

陸軍

7 6 5 4 3 2 1

前脚	架頭	方向照準機	高低照準機
一	一	一	一
脚頭	脚頭軸 ナット 割ピン	緩衝托架坐 止ねぢ(駐栓共) 樞軸(ナット、座金、割ピン共)	體 規整板(室蓋、小ねぢ四共) 脚頭室蓋(小ねぢ四共)
一	一	一	一
方向制限駐子 左右各一	滑走板 下板(止ねぢ三共) 駐子(止ねぢ、駐環共)	進板 坐 左右各一	遊動桿 軸
一	一	一	一
昇降螺外螺 分畫環(止ねぢ共) 底螺(小ねぢ共) 坐軸(ナット、座金、割ピン共)	一	一	一
一	一	一	一
16	15	14	13
12	11	10	9
8			

後				前		
脚				脚		
左右各一				一		
下 桿	中 桿	上 桿	脚 頭	下 桿	中 桿	上 桿
關節	下部關節(軸共) 下部關節(軸共) 下部關節(軸共) 下部關節(軸共)	提革托環 上部關節(軸、駐筒握把、駐筒握把) 上部關節(軸、駐筒握把、駐筒握把)	下部關節(ナツト、座金、割ピン共) 鐵	關節	提革托環 上部關節(軸、駐筒握把、駐筒握把) 下部關節(軸、駐筒握把、駐筒握把)	下部關節(軸、駐筒握把、駐筒握把) 下部關節(軸、駐筒握把、駐筒握把)
腫鐵	腫鐵	腫鐵	腫鐵	腫鐵	腫鐵	腫鐵
23	22	21	20	19	18	17

陸軍

2120

	品 屬	支		
	縛			
	革	桿		
	三	一		
	管 簪 環	後 桿	緊 定 螺	前 桿
	→	→	→	→
		筒 坐	轉 緊 定 環 桿 (頭 共)	軸 坐、割ピン共
		→	→	→
		軸 壓 金、割ピン共	ナツト	底 頭
		→	→	→

昭和十二・十・東京 助川 納

21

26

25

27

九六式輕渡脚銃三脚架乙細目名稱表

昭和二十一年三月九日  
陸軍省第一號

陸軍

分名	稱數	量	細部ノ名稱	數量及摘要
高射 筒 托 架	—	—	銃尾托坐	駐栓 —
			銃坐	尾桿 — 駐鉤(ばね、ばね蓋共) —
			緩衝ばね	—
			高射緩衝ばね	—
			高射緩衝ばね軸	駐板(軸、活筒、活筒頭、活筒ばね共) — 駐板止 — 高射緩衝ばね室 — 緊螺
			銃坐托筒	塞板(小ねぢ共) — 覆(前板止ばね共) — 駐栓(握把、握把ばね、握把軸共) —
			昇降螺	—

高低照準機

7 6 5 4 3 2 1

前脚	架頭	方向照準機	高低照準機
一	一	一	一
脚頭	脚頭軸 脚頭蓋 (小ねち四共) 規整板 (室蓋) 小ねち四共 緩衝托架坐 止ねち (駐栓共) 一 座金	滑走板 下板 (止ねち二共) 一 滑輪 (坐金軸二共) 一 駐子 (止ねち、駐環共) 一 方向制環駐子 左右各一 止ねち 駐環 駐板	遊動桿 軸 昇降螺外螺 一 分畫環 (止ねち、緊定板共) 一 底螺 (小ねち共) 一 坐輪 (ナット坐金共) 一 坐 左右各一
昭和十一年	14	13	12 11 10 9 8

支		後			前		
桿		脚			脚		
一		左右各一			一		
後桿	緊定螺	前桿	下桿	上桿	脚頭	下桿	上桿
一	一	一	一	一	一	一	一
筒 坐	緊定環 轉桿 (頭共)	軸 (座金共) 坐	關節 (軸共) 駐筒握把ばね 提草托環	關節 (軸共) 轉把 (座金共)	關節 踵 鐵	關節 踵 鐵	關節 踵 鐵
一	一	一	一	一	一	一	一
軸 (座金共)	座 金 ナット	底 頭	踵 鐵	踵 鐵	提草托環	提草托環	踵 鐵
一	一	一	一	一	一	一	一

陸軍

24 23 22 21 20 19 18 17

1221

品 屬		
提		
革		
三		
吊	控	對
革	革	控
一	一	一
三角環	遊環革	
一	一	
鉤環		
一		

昭和十二年・十・東京 助川納

27 26 25